

図-6 樹冠投影図 (明眼の森 タブ型林)

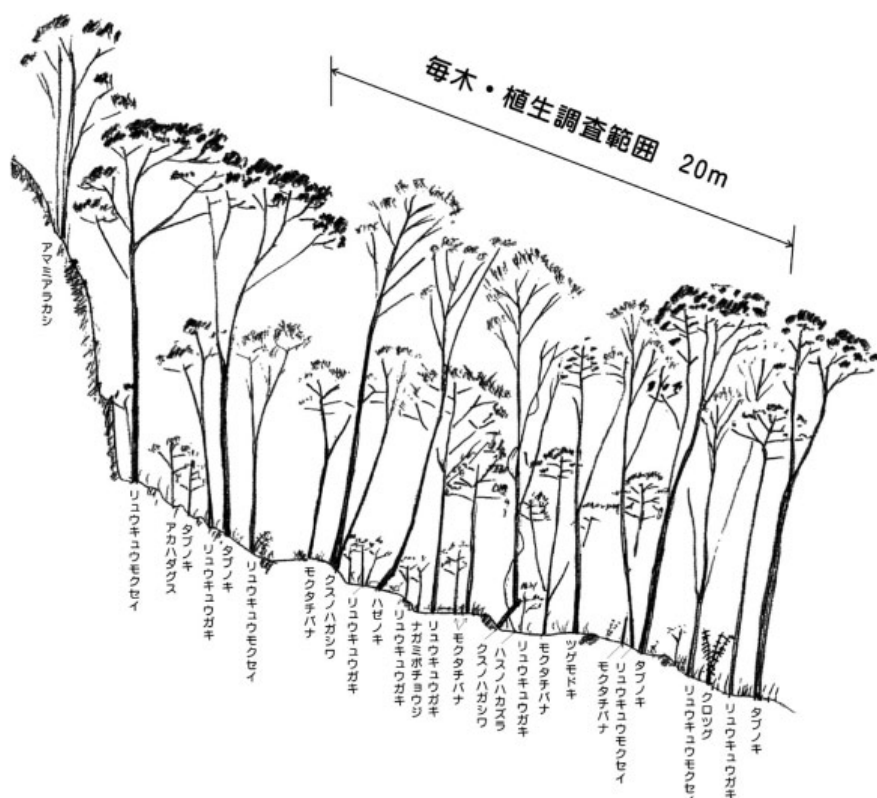


図-7 断面模式図 (明眼の森 タブ型林)

表-5 毎木調査表 (明眼の森タブ型林)

B-D区画 明眼 2009.09.19

区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考	区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考
A	1	モクダチバナ	7.7	14.3		C	48	モクダチバナ	11.0	9.4	
	2	クスノハガシワ	10.0	28.5			49	モクダチバナ	3.0	4.8	
	3	クスノハガシワ	3.0	4.6			50	モクダチバナ	3.0	4.3	
	4	クスノハガシワ	3.0	5.3			51	モクダチバナ	3.5	3.5	
	5	ヒラミレモン	5.0	13.5			52	モクダチバナ	7.0	11.1	
	6	ハゼノキ	12.6	33.4			53	モクダチバナ	6.0	6.6	
	7	モクダチバナ	8.0	16.4			54	モクダチバナ	4.5	7.7	
	8	モクダチバナ	4.0	4.5			55	タブノキ	14.0	70.5	
	9	モクダチバナ	5.0	11.0			56	リュウキュウガキ	3.0	4.6	
	10	モクダチバナ	4.0	4.1			57	モクダチバナ	3.0	3.8	
	11	ハゼノキ	8.0	33.0			58	モクダチバナ	4.0	3.8	
	12	リュウキュウモクセイ	9.0	23.0			59	リュウキュウガキ	4.0	4.8	
	13	リュウキュウガキ	9.0	8.0			60	リュウキュウガキ	5.5	5.2	
	14	タブノキ	13.0	30.8			61	リュウキュウガキ	6.0	3.5	
	15	アカハダグス	9.0	16.1			62	モクダチバナ	4.0	6.1	
	16	モクダチバナ	9.0	5.3			63	モクダチバナ	6.0	8.3	
	17	モクダチバナ	4.0	11.5	16~17 h0.5mで分岐		64	リュウキュウガキ	4.0	4.2	
	18	モクダチバナ	7.0	6.8			65	モクダチバナ	6.0	7.0	
	19	ガジュマル	10.0	12.5			66	リュウキュウガキ	5.0	6.8	
	19-2	ガジュマル	10.0	7.2			67	モクダチバナ	3.0	3.7	
	19-3	ガジュマル	10.0	9.5	19~19+3 ハゼノキ(株)を抱く		68	モクダチバナ	5.5	9.9	
	20	クスノハガシワ	10.0	29.0			69	モクダチバナ	4.5	4.3	
	21	バクチノキ	9.0	14.2			70	モクダチバナ	5.0	5.3	
	22	リュウキュウガキ	7.0	7.8			71	クスノハガシワ	3.0	4.0	
	23	モクダチバナ	6.0	7.1			72	クスノハガシワ	5.0	7.6	
	24	モクダチバナ	3.0	10.3			73	クスノハガシワ	11.0	47.5	71~73 根元から分岐
	25	モクダチバナ	5.0	11.0	24~25 h0.6mで分岐		74	リュウキュウガキ	4.0	6.4	
	26	モクダチバナ	4.0	4.7			75	リュウキュウガキ	7.0	8.6	
	27	モクダチバナ	6.0	7.6			76	モクダチバナ	7.0	9.3	
	28	モクダチバナ	5.0	4.5			77	ハゼノキ	10.0	48.3	
29	モクダチバナ	7.0	8.5	26~29 h0.5mで分岐	78	モクダチバナ	7.0	7.5			
30	モクダチバナ	4.0	6.9		79	リュウキュウガキ	9.0	19.7			
B	31	ヒメユズリハ	9.0	15.6		80	モクダチバナ	9.0	8.9		
	32	クスノハガシワ	9.0	22.9		81	アカハダグス	7.0	8.5		
	33	クスノハガシワ	7.0	5.2		81-1	アカハダグス	6.0	5.8		
	34	モクダチバナ	9.0	17.5		82	モクダチバナ	5.0	5.8		
	35	モクダチバナ	4.0	5.2		83	モクダチバナ	9.0	9.9		
	36	モクダチバナ	3.0	7.0		84	モクダチバナ	4.5	4.6		
	37	モクダチバナ	7.0	16.7	36~37 h0.7mで分岐	85	ハゼノキ	11.0	58.7		
	38	ハカマカズラ	9.0	4.9		86	アコウ	9.0	13.7	85ハゼノキを抱く	
	39	リュウキュウガキ	8.0	10.0		87	リュウキュウガキ	10.0	18.4		
	40	リュウキュウモクセイ	11.0	25.5		88	リュウキュウガキ	8.0	10.8		
	41	タブノキ	12.0	39.0		89	リュウキュウモクセイ	7.0	7.7		
	42	リュウキュウモクセイ	11.0	21.6		90	リュウキュウモクセイ	8.0	11.4		
	43	ツゲモドキ	14.0	25.7		91	リュウキュウモクセイ	7.0	11.0		
	44	アカハダグス	4.0	4.0		92	リュウキュウモクセイ	9.0	16.2		
	45	モクダチバナ	7.0	9.8		93	ハゼノキ	4.0	15.4		
	46	クスノハガシワ	14.0	31.2		94	リュウキュウガキ	9.0	14.0		
	47	アカハダグス	3.0	3.5							

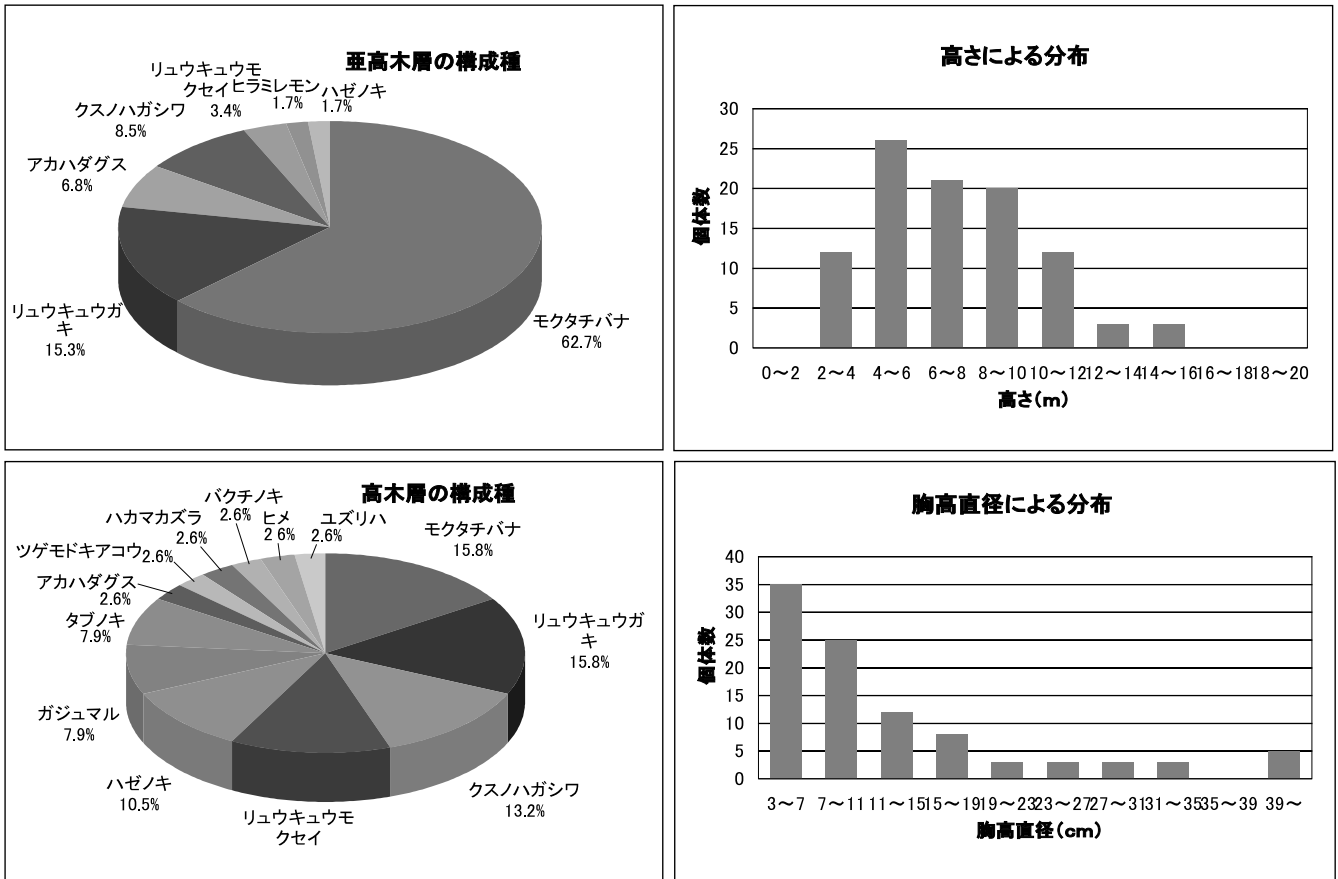


図-8 群落構造諸データ（明眼の森 タブ型林）

明眼の森アマミアラカシ林（図-9, 10, 11, 表-6）

明眼の森にあってノ口の祭祀場から南東に延びる緩斜面の尾根面に20m四方のコドラートを設置した。隆起珊瑚礁の未風化岩が裸出し、土壌は貧栄養で、乾燥し、起伏のある地形になっている。植生調査の調査区番号3の群落で種組成から見るとアマミアラカシ群落アカハダクスノキ下位単位サダソウ下位単位に帰属する群落である。

群落の高さは12mと低く、アマミアラカシの個体が70本以上もあり二次林的な傾向を持つ。アマミアラカシの被度が70%前後と高く、胸高直径3cm以上の個体が168本あり最も多く、特に樹高が4~6mの個体が多い。胸高直径は20cm以上が15本、40cm以上は1本だけで、小さな個体が多い。

8m~12mの高木層を樹種で見ると、アマミアラカシが個体数の割合でも58%と圧倒的に多い。次いでハゼノキ、シマタゴの落葉樹が占め、絶滅危惧種となっているオオカナメモチの胸高直径68cmが最大の樹木になっていることが興味深い。

亜高木・低木層ではアマミアラカシの萌芽個体が非常に多くクチナシ、ヒメユズリハ、ショウベンノ

キなどが次いでいる。

本調査地はノ口の祭祀場の下部に当たり、また、戦争時にいくらかの人為的干渉のあった場所と思われる。また、按司の見張り場付近も同様な景観で胸高直径が20cm未満のアマミアラカシが多いところである。

明眼のアマミアラカシ群落の中にはこのような胸高直径が小さな群落ばかりでない。ドリーネの東側斜面に胸高直径が60cm程度のアマミアラカシ群落が分布する林分がある。今回は、急峻なため毎木調査の対象とはしなかった。



図-6 林床にクロツグが多い義名山の群落

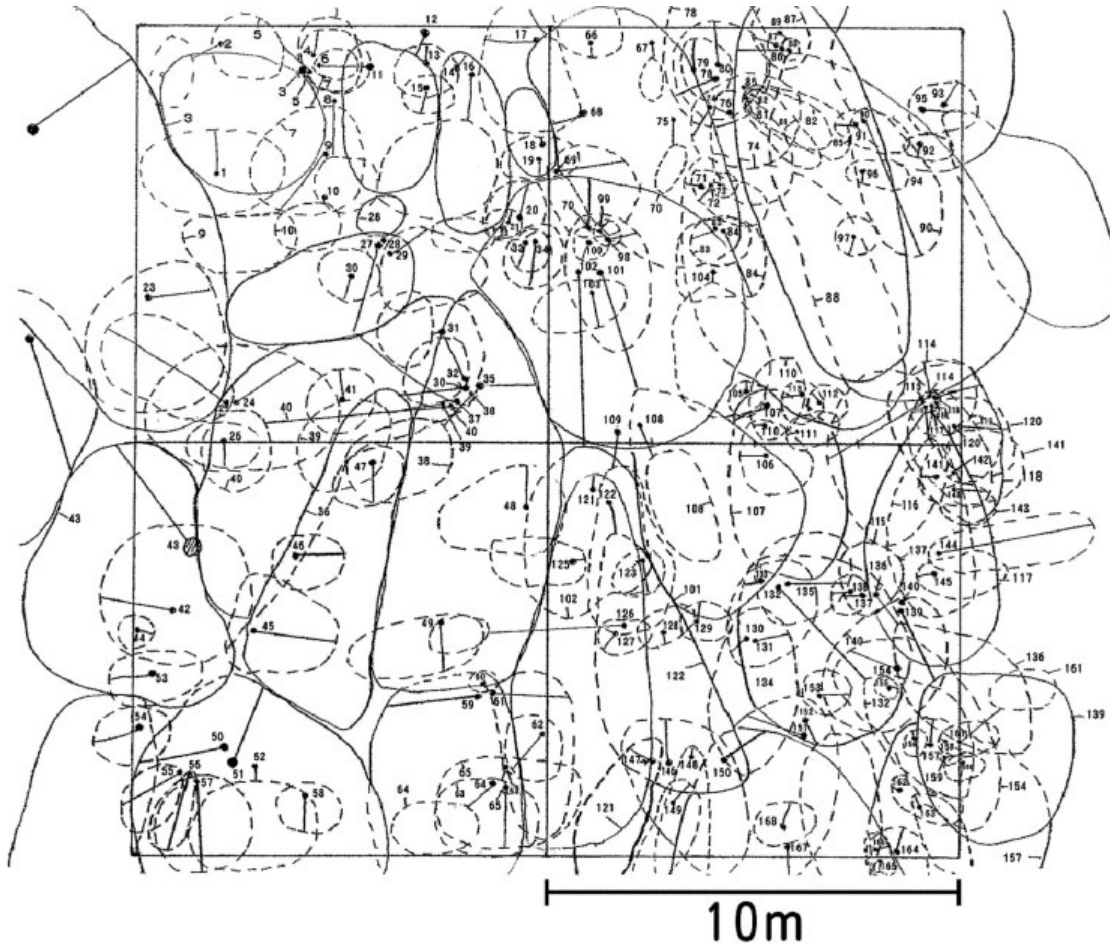
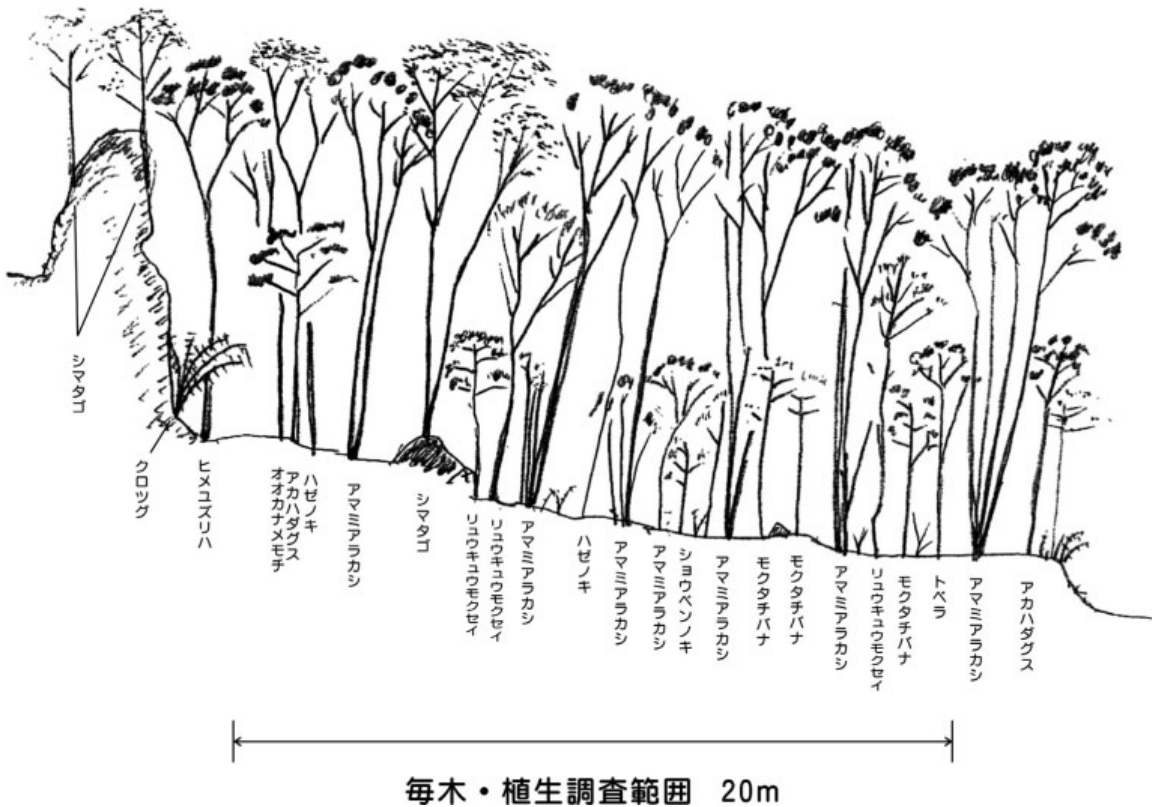


図-9 樹冠投影図 (明眼の森 アマミアラカシ林)



每木・植生調査範囲 20m

図-10 断面模式図 (明眼の森 アマミアラカシ林)

表-6 毎木調査表(明眼の森アマミアラカシ林)

調査日 2009.09.20

区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考	区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考
A	1	リュウキュウガキ	5.2	3.5		C	85	ツゲモドキ	4.5	3.7	
	2	(枯死)		6.0			86	アマミアラカシ	9.6	23.0	
	3	アマミアラカシ	10.0	19.6			87	クチナシ	4.5	5.1	
	4	アマミアラカシ	7.0	5.7			88	アマミアラカシ	10.0	16.3	
	5	アマミアラカシ	6.0	5.4			89	ツゲモドキ	5.0	3.3	
	6	アマミアラカシ	7.5	4.7			90	アマミアラカシ	5.4	10.6	
	7	アマミアラカシ	8.0	8.0	3~7 根元から分岐		91	アマミアラカシ	5.6	5.1	
	8	ヤブニッケイ	3.1	8.0			92	イヌマキ	4.8	6.3	
	9	ヒメユズリハ	4.5	8.0			93	アマミアラカシ	5.0	6.7	
	10	アマミアラカシ	5.0	4.5			94	アマミアラカシ(枯死)		3.2	枯死
	11	リュウキュウモクセイ	8.0	8.5			95	アマミアラカシ	5.6	13.5	
	12	オオカナメモチ	7.4	33.0			96	ハゼノキ	3.5	5.0	
	13	ヒメユズリハ	6.0	5.7			97	アマミアラカシ	6.0	4.5	
	14	コバンモチ	8.0	4.7			98	アマミアラカシ	8.0	12.0	
	15	ツゲモドキ	4.0	4.6			99	アマミアラカシ	4.0	3.5	
	16	リュウキュウモクセイ	4.0	13.6			100	アマミアラカシ	5.5	4.0	
	17	リュウキュウモクセイ	5.8	11.6			101	シマタゴ	8.0	15.0	
	18	リュウキュウモクセイ	4.0	5.7			102	シマタゴ	7.0	10.3	
	19	ハゼノキ	8.5	15.8			103	シャリンバイ	3.5	3.9	
	20	アマミアラカシ	8.5	9.5			104	タブノキ	8.0	9.7	
	21	アマミアラカシ	4.0	4.1			105	アマミアラカシ	4.5	3.7	
	22	アマミアラカシ	8.0	7.8	20~22 根元から分岐		106	アマミアラカシ	8.0	11.2	
	23	ショウベンノキ	7.0	6.1			107	アマミアラカシ	8.0	17.2	
	23-2	クチナシ	3.5	3.1			108	ヒメユズリハ	4.0	10.8	
	24	ショウベンノキ	7.4	7.6			109	ヒメユズリハ	5.6	11.8	
	25	ショウベンノキ	3.4	5.8	24~25 根元から分岐		110	アマミアラカシ	7.0	8.5	
	26	トベラ	4.5	3.3			111	ツゲモドキ	6.8	8.7	
	27	ヤブニッケイ	10.6	12.8			112	クロツグ	2.7	8.2	
	28	ヤブニッケイ	10.6	9.8			113	ツゲモドキ	5.6	3.8	
	29	ヤブニッケイ	10.6	9.1	27~29 根元から分岐		114	アマミアラカシ	7.0	6.1	
	30	クチナシ	4.2	3.4			115	アマミアラカシ	8.0	10.7	
	31	ハゼノキ	7.6	12.8			116	アマミアラカシ	6.0	7.2	
	32	アマミアラカシ	8.0	9.9			117	アマミアラカシ	9.0	16.2	
	33	アマミアラカシ	6.0	7.0			118	アマミアラカシ	8.0	10.7	
	34	アマミアラカシ	6.5	9.0			119	アマミアラカシ	7.0	5.3	114~119 根元から分岐
	35	アマミアラカシ	10.0	22.2			120	アマミアラカシ	4.5	3.2	
	36	アマミアラカシ	6.0	18.1			121	アマミアラカシ	11.0	18.1	
	37	アマミアラカシ	9.0	24.7			122	アマミアラカシ	10.0	16.7	
	38	アマミアラカシ	3.0	5.1			123	ハゼノキ	9.6	13.4	
	39	アマミアラカシ	7.5	7.7			124	リュウキュウクロウメモドキ		12.2	枯死
	40	アマミアラカシ	6.0	7.0			125	アマミアラカシ	3.0	7.8	
41	クチナシ	3.0	3.0		126	アマミアラカシ	4.5	7.0			
42	カクレミノ	8.0	14.3		127	アマミアラカシ	4.0	3.3			
43	オオカナメモチ	12.0	68.0		128	ヒメユズリハ	5.0	9.7			
44	フカノキ	4.5	3.0		129	イヌマキ	4.0	3.5			
45	タブノキ	6.0	5.2		130	オオカナメモチ	5.0	30.0			
46	クチナシ	5.0	3.5		131	オオカナメモチ	4.0	7.2	130~131 根元から分岐		
47	クチナシ	4.5	3.6		132	シマタゴ	8.0	10.5			
48	クチナシ	4.5	5.2		133	シマタゴ	8.0	12.3			
49	タブノキ	7.0	4.4		134	シマタゴ	6.6	11.2			
50	アマミアラカシ	10.0	22.1		135	イヌマキ	6.0	4.5			
51	アマミアラカシ	11.6	33.9		136	アマミアラカシ	7.0	9.5			
52	アマミアラカシ	5.0	9.3	50~52 根元から分岐	137	アマミアラカシ	6.0	8.5			
53	アカハダグス	4.0	4.9		138	アマミアラカシ	5.0	3.6			
54	フカノキ	4.5	6.7		139	ホルトノキ	9.0	27.5			
55	ショウベンノキ	3.6	3.4		140	ハゼノキ	5.5	7.4			
56	ショウベンノキ	4.4	3.9		141	ヒメユズリハ	4.6	4.1			
57	ショウベンノキ	4.4	5.5		142	クチナシ	3.6	3.5			
58	タブノキ	3.5	3.5		143	ボロボロノキ	3.8	3.0			
59	ハゼノキ	10.0	11.9		144	アマミアラカシ	8.0	16.8			
60	アマミアラカシ	12.0	20.4		145	アマミアラカシ	6.5	5.3	144~145 根元から分岐		
61	アマミアラカシ(枯死)	6.5	3.6	枯死	146	アマミアラカシ	11.4	16.3			
62	アマミアラカシ	9.6	12.0		147	アマミアラカシ	11.4	14.3			
63	アマミアラカシ	8.2	10.3		148	ツゲモドキ	5.2	9.1			
64	アマミアラカシ	6.4	4.8		149	ハゼノキ	10.4	11.7			
65	アマミアラカシ	12.0	11.9	63~65 根元から分岐	150	ホルトノキ	10.8	28.4			
66	トベラ	7.0	13.2		151	アマミアラカシ	8.0	26.0			
67	ガジュマル	2.5	3.2		152	アマミアラカシ	9.0	21.5	151~152 根元から分岐		
68	ハゼノキ	7.5	14.4		153	アカハダグス	3.5	3.2			
69	オオカナメモチ	6.0	7.4		154	フカノキ	9.6	13.8			
70	アマミアラカシ	10.4	19.7		155	アマミアラカシ	5.0	3.5			
71	アマミアラカシ	8.0	19.0		156	アマミアラカシ	6.0	5.2			
72	アマミアラカシ	4.5	3.6		157	アマミアラカシ	9.0	30.0			
73	アマミアラカシ	5.0	4.5		158	アマミアラカシ	5.6	5.0			
74	リュウキュウガキ	5.0	4.2		159	フカノキ	2.5	4.0			
75	リュウキュウクロウメモドキ	4.0	3.8		160	フカノキ	3.0	3.3			
76	ヤブニッケイ	6.5	6.8		161	アマミアラカシ	4.0	3.1			
77	ツゲモドキ(枯死)			枯死	162	アマミアラカシ	6.0	5.6			
78	ヒメユズリハ	7.0	8.5		163	カクレミノ	7.0	12.6			
79	クロツグ	4.0	8.9		164	アマミアラカシ	5.0	6.5			
80	クロツグ	5.0	9.6		165	アマミアラカシ	7.6	14.4			
81	ハマイヌビワ	8.5	4.8		166	ハゼノキ	8.0	11.5			
82	ハマイヌビワ	8.0	9.5	81~82 h0.5mで分岐	167	ハゼノキ	8.0	12.9			
83	クチナシ	4.5	3.8		168	モクダチバナ	5.0	4.5			
84	クチナシ	4.5	6.1								

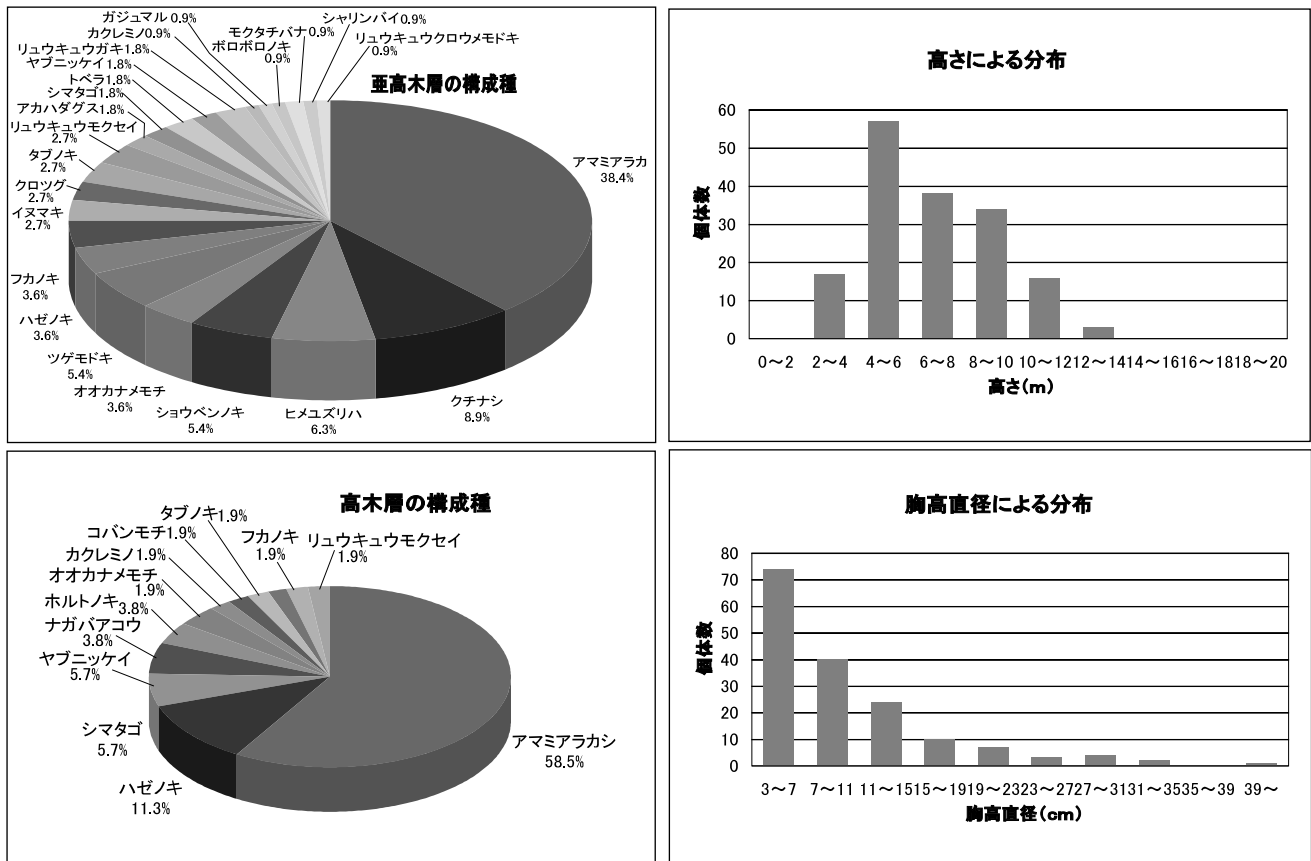


図-11 群落構造諸データ (明眼の森 アマミアラカシ林)

義名山のアマミアラカシ林 (図-12, 13, 14, 表-10)

義名山のアマミアラカシ群落の中で傾斜も緩やかで隆起石灰岩の表面に裸出の少ない典型的な立地でコドラードを設置した。オオパルリミノキ下位単位典型下位単位に分類される調査区番号5の群落で、図-13が群落断面である。群落の高さは19.4mと最も高く、8m以上を高木層、3～8mを亜高木層と見ることができる。胸高直径3cm以上の個体数は118本で、うち7cm以上のものが約半分あり、20cm以上が10本、40cm以上のアマミアラカシ5本があり、70cmを越えるアマミアラカシ(88, 81, 75cm)3本、クログネモチ(71cm)1本を含め4本あり、林冠の大半をアマミアラカシが覆っている。

8m以上の亜高木層の構成種は16種と多く、アマミアラカシの占める割合は31%と必ずしも高くなく多様な樹種で構成されている。

表土は必ずしも厚くないためホソバタブ、ホルトノキ、アマミアラカシの一部に板根が発達したものがある。ショウベンノキやホソバタブ等樹種は多数あってもそれぞれ胸高直径は小さく被度は小さい。亜高木・低木層には3～5mのシシアクチ、ポチョウジの個体数が多いが、枝の広がりはいさいため、

個体数の割に被度は小さい。一方リュウキュウガキ、ショウベンノキの個体数は多くはないが樹高5～8mのものが多く被度も高い。ヤシ科のクロツグは横に広がっており個体数の割に被度が高い。

ポチョウジ、シシアクチ、クロツグの個体数、被度が高くなり明眼の森とは形態の異なるアマミアラカシ林である。

## 6 明眼の森・義名山の森の価値について

(1) 亜熱帯地域である宝島以南の南西諸島の平地部森林の自然植生があること

日本においても、また、世界においても生産性の高い温帯・亜熱帯地域の平地部は森が切り開かれ農耕地として繰り返し利用され、また、人家に近い山地部は燃料・住宅材等の供給源として里山となり、自然林は皆無に等しい。特に温暖な南西諸島においては戦後の混乱期等人口が爆発するように多く、未利用地の多くが開拓された。また、農地の大規模化を促す近年の農耕地の整備事業によって、わずかに残っていた自然林もつぶされてきている。徳之島でも多くの自然林が圃場整備で失われたが、明眼の森、義名山については奇跡的に残っている。

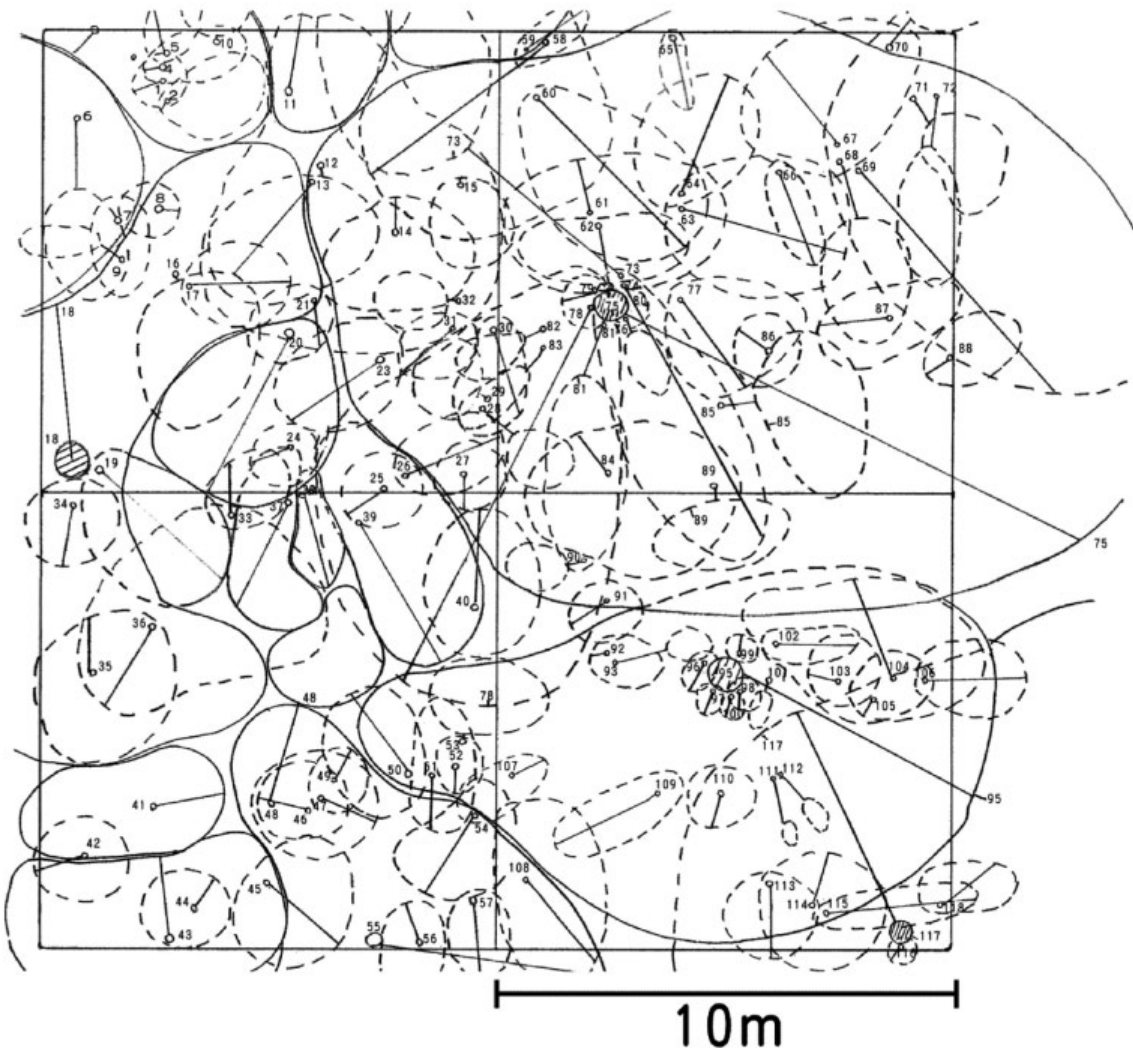


図-12 樹冠投影図 (義名山 アマミアラカシ林)

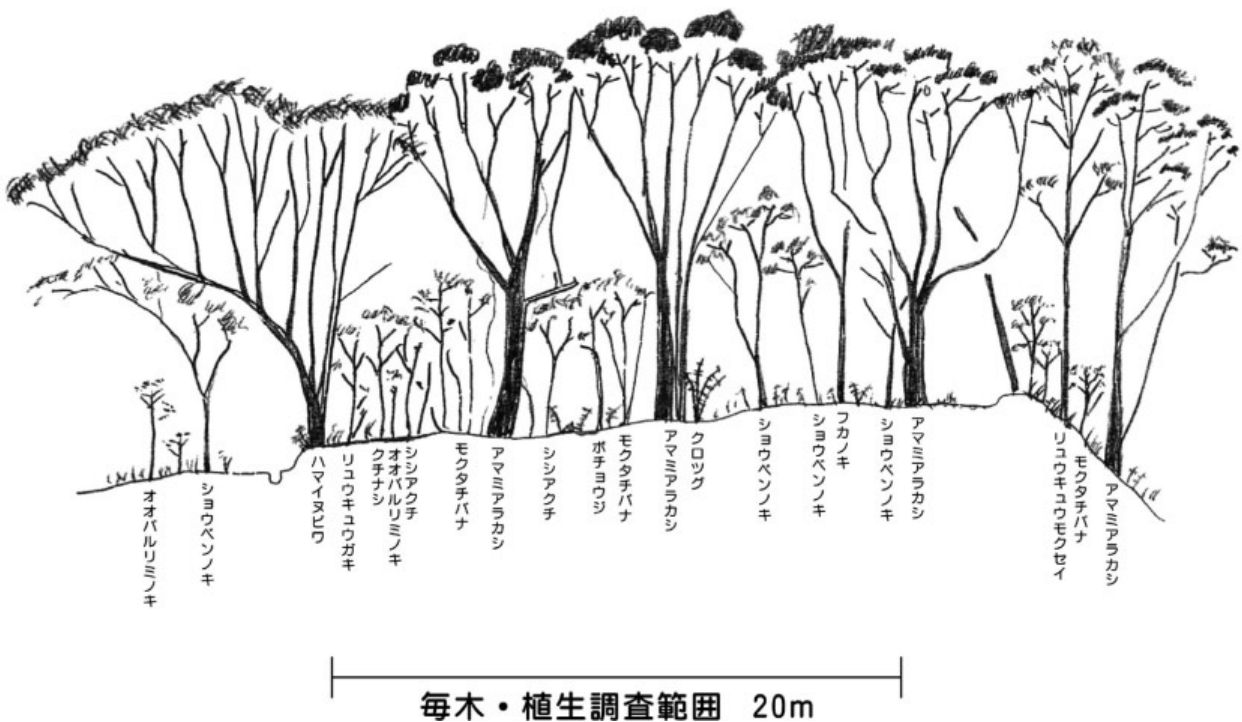


図-13 断面模式図 (義名山 アマミアラカシ林)

表-7 毎木調査表 (義名山アマミアラカシ林)

B-D区画 義名山 2009.09.21

区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考	区画	No.	種名	樹高(m)	胸高直径(cm)	備考
A	1	クロツグ	4.6	12.7		C	58	フカノキ	9.0	18.0	
	2	クロツグ	5.0	14.9			59	フカノキ	2.5	3.0	
	3	クロツグ	4.0	8.0			60	ショウベンノキ	6.4	6.9	
	4	クロツグ	4.5	10.5			61	クロツグ	2.8	11.2	
	5	クロツグ	5.0	11.8			62	クロツグ	2.8	9.7	
	6	ホソバタブ	8.0	12.0			63	ショウベンノキ	6.6	12.3	
	7	リュウキュウガキ	5.2	3.7			64	ショウベンノキ	9.6	8.3	63~64 h0.6mで分岐
	8	リュウキュウガキ	4.2	3.0			65	シシアクチ	3.0	3.2	
	9	シシアクチ	3.0	2.9			66	ボチョウジ	3.8	4.0	
	10	リュウキュウガキ	5.5	3.7			67	ショウベンノキ	9.0	9.2	
	11	ムサンタチバナ	6.6	19.5			68	ショウベンノキ	6.0	11.2	67~68 h1.2mで分岐
	12	ショウベンノキ	9.0	14.1			69	カキバカンコ	12.2	33.2	
	13	フカノキ	7.0	8.7			70	ホソバタブ	9.6	13.3	
	14	シシアクチ	7.6	7.6			71	シロミミズ	5.0	5.9	
	15	オオシイバモチ	5.8	6.6			72	シロミミズ	6.0	7.2	71~72 h0.1mで分岐
	16	リュウキュウガキ	6.5	6.9			73	アマミアラカシ	15.0	26.0	
	17	リュウキュウガキ	5.5	4.9	16~17 h0.3mで分岐		74	アマミアラカシ	14.0	16.1	
	18	クロガネモチ	11.8	71.0			75	アマミアラカシ	16.0	81.0	
	19	オオシイバモチ	9.0	13.1			76	アマミアラカシ	4.0	5.6	
	20	フカノキ	9.0	13.4			77	ボチョウジ	6.0	5.8	
	21	リュウキュウガキ	2.5	3.2			78	アマミアラカシ	14.0	22.0	
	22	リュウキュウガキ	3.5	5.4			79	アマミアラカシ	7.0	10.8	
	23	シシアクチ	7.0	8.0			80	アマミアラカシ	8.0	11.0	
	24	モクタチバナ	7.0	4.6			81	アマミアラカシ	7.0	8.3	73~76及び78~81は分岐
	25	ホルトカズラ	11.0	5.3	39に巻く		82	シシアクチ	3.5	3.2	
	26	シシアクチ	4.0	4.7			83	シシアクチ	4.5	4.3	
	27	シシアクチ	4.0	3.1			84	シロミミズ	6.5	6.8	
	28	シシアクチ	2.5	3.3			85	シシアクチ	3.8	6.5	
	29	シシアクチ	2.5	3.2			86	シシアクチ	3.8	3.0	
	30	シシアクチ	2.6	3.2			87	シシアクチ	3.8	4.2	
	31	リュウキュウガキ	5.4	3.0			88	ボチョウジ	7.5	9.9	
	32	シシアクチ	2.5	3.4			89	ボチョウジ	3.8	5.5	
B	33	シシアクチ	2.6	4.0		90	ボチョウジ	6.0	3.7		
	34	サカキカズラ	11.5	3.3	18に巻く	91	シシアクチ	4.0	3.0		
	35	ショウベンノキ	9.4	18.1		92	シシアクチ	6.0	3.9		
	36	クロツグ	4.0	9.1		93	シシアクチ	2.8	3.4		
	37	モクタチバナ	9.6	11.0		94	ボチョウジ	4.0	3.4		
	38	モクタチバナ	9.6	9.6	37~38 h0.6mで分岐	95	アマミアラカシ	17.0	88.5		
	39	カキバカンコ	9.2	28.0		96	アマミアラカシ	6.5	5.5		
	40	モクタチバナ	9.0	17.7		97	アマミアラカシ	9.0	3.8		
	41	ホソバタブ	19.4	19.9	板根発達	98	アマミアラカシ	10.0	12.6		
	42	シロミミズ	8.2	7.9		99	アマミアラカシ	6.5	4.6		
	43	ホルトノキ	14.6	29.6	板根発達	100	アマミアラカシ	7.0	5.0	95~100は分岐	
	44	ボチョウジ	3.0	3.3		101	ボチョウジ	2.5	3.5		
	45	ボチョウジ	3.8	5.0		102	ボチョウジ	2.5	3.4		
	46	モクタチバナ	6.0	7.2		103	アマミアラカシ	6.0	5.0		
	47	モクタチバナ	7.5	7.6		104	アマミアラカシ	12.0	11.0		
	48	ハゼノキ	11.5	16.3		105	ボチョウジ	3.0	4.1		
	49	シシアクチ	3.0	3.0		106	ニッケイ	8.0	11.7		
	50	ショウベンノキ	6.5	8.4		107	ボチョウジ	3.0	3.5		
	51	フカノキ	5.0	6.2		108	ショウベンノキ	6.0	8.5		
	52	ボチョウジ	2.5	3.0		109	シシアクチ	3.0	3.8		
	52-2	ビナンカズラ	10.0	4.5	48及び55に巻く	110	シシアクチ	3.0	4.2		
	53	ショウベンノキ	7.5	10.0		111	シシアクチ	3.0	4.0		
	54	シロミミズ	4.0	8.4		112	シシアクチ	3.0	4.1		
	55	アマミアラカシ	12.3	43.0	板根発達	113	オオシイバモチ	4.0	3.5		
	56	ショウベンノキ	7.6	11.6		114	ショウベンノキ	4.0	4.2		
57	ボチョウジ	4.0	3.2		115	シシアクチ	1.5	3.2			
					116	ツルグミ	17.0	4.5			
					117	アマミアラカシ	17.0	75.1			
					118	リュウキュウガキ	7.2	7.0			



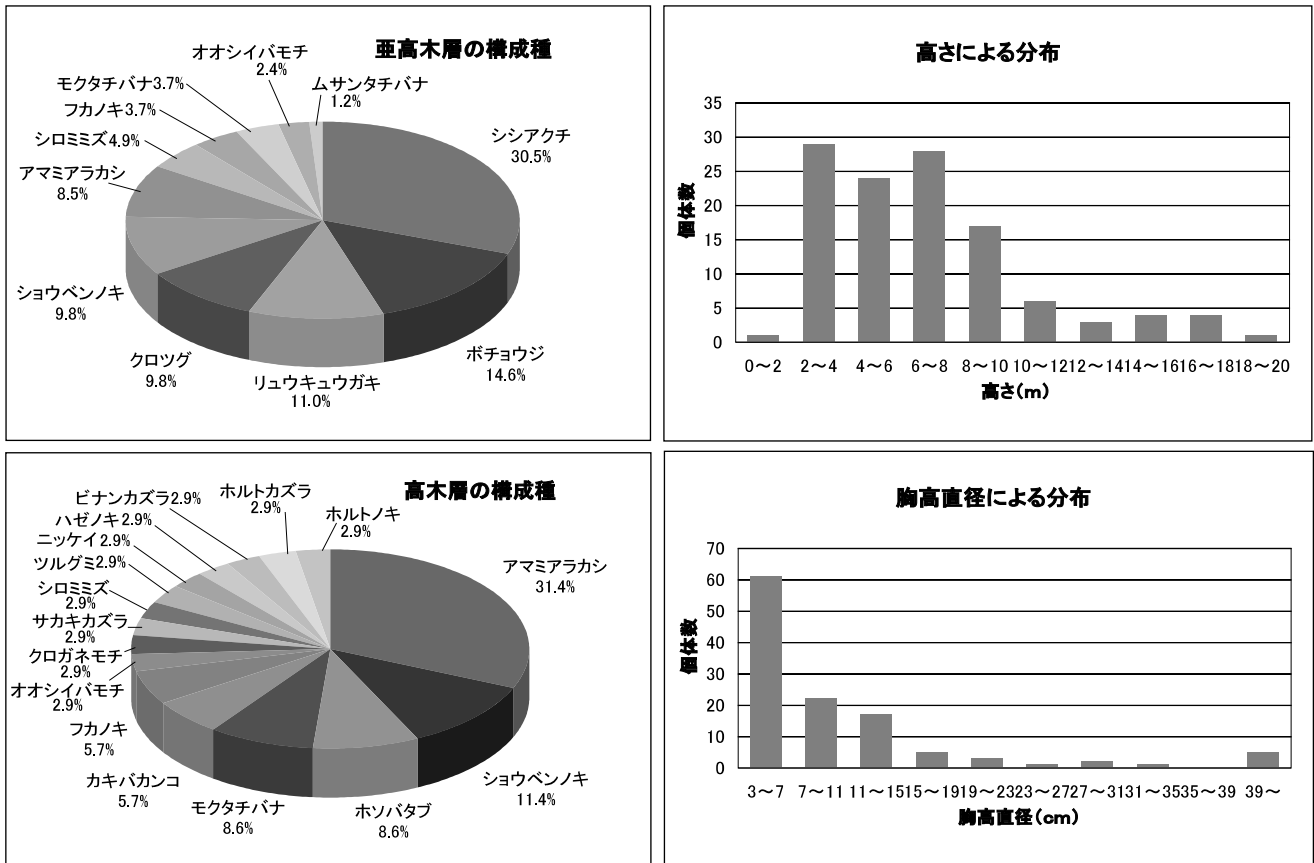


図-14 群落構造諸データ (義名山 アマミアラカシ林)

(2) 地域の人々が聖域として認識し、文化財として保護してきたこと

これまで保護されてきたのは地域の方々の思いがあったと伝えられている。地域の自然や文化財について研究している方々の研究成果で、義名山・明眼の森とも地域においては歴史的価値が認識され、伊仙町は昭和53年2月23日「名勝史跡」として「義名山の森」「みょうがんやま」2件の文化財指定を行った。「みょうがんやま」はかつて国有地であったが、伊仙町が営林署より公園にすることで払い下げを受け、その後歩道だけを整備して「明眼の森自然公園」として一般に開放されている。また、義名山も昭和50年代に体育館、プール、陸上競技場を持つ運動公園として周辺が造成され自然林の面積は減少したが、その後開発等もなく他の地域にないアマミアラカシの巨木の森が保護されている。

(3) アマミアラカシ群落の典型的な森林があること

アマミアラカシは西表島から奄美大島に分布するが、アマミアラカシ群落の分布は少なく、鹿児島県では奄美大島と徳之島に分布し、奄美大島では住用川の渓谷沿いや嘉徳等の非石灰岩地の渓谷斜面や市

崎等の急崖地、また、2007年天然記念物指定を受けた大和浜のオキナウラジロガシ林の山脚部の急崖地、住用・役勝川河口の沖積平坦地に分布する。

石灰岩地では奄美大島には群落はなく、徳之島で散見されるが、明眼の森、義名山に匹敵するものはない。また、奄美大島の非石灰岩地の群落はいずれも群落の広さ、構成する樹木の胸高直径等においても凌駕するものはない。

アマミアラカシ群落は沖縄県においては隆起珊瑚礁上の自然植生であり、現存する群落は少なく、沖縄本島では辺土岳、安和御嶽、嘉津宇岳、知花城跡、漢那ヨリアゲの森、玉城村富里山原山に確認される程度である。(新納 1995) 宜野座村の漢那ヨリアゲの森は、アマミアラカシが優占する石灰岩上の低木林であり、御嶽林として保護され、アマミアラカシ群落として唯一環境庁の特定群落調査の対象とされている。 (「漢那御嶽のアマミアラカシ群落」)

2010年2月23日、筆者は現地調査を行った。面積的には明眼の森、義名山のいずれよりも狭小で森の大半は戦時中あるいは戦後の混乱期に伐採され、その後回復した二次林であった。しかしながら、風葬地の周辺には高さ10~13m、胸高直径が60cm~1m

前後あるアマミアラカシの個体を含む自然林のアマミアラカシ群落があり、琉球石灰岩地の原植生が残る貴重な地域であり、自然公園として活用されていた。

ブナやスダジイ、イチイガシなどブナ科植物は日本の夏緑樹林帯、照葉樹林帯の森林群落で優占種となることが多いが、アマミアラカシは南西諸島の隆起珊瑚礁由来の石灰岩地帯においては唯一の種であり、義名山、明眼の森のアマミアラカシ群落は群落の規模、構成するアマミアラカシの林相等、他地域でも見ることができない希有の存在である。

#### (4) 豊かな森林植物相があること

石灰岩地特に隆起珊瑚礁で未風化のところには一般には植物の生育に不適なところも多いが、義名山では風化が進み、豊穡な土が形成され高木林が形成されており、アマミアラカシ群落に集約される群落が形成され、豊かな森林植物相を形成している。また、乾燥した場所だけでなく、湧水地もあって湿潤な環境があり、多様な植物が生育する。また、聖地として人が入る機会が少なかったため、狭い面積の中に多数の絶滅危惧植物も生育しており、絶滅危惧植物のホットスポットになっている。

#### 7 明眼の森・義名山の保護について

明眼の森・義名山はすでに伊仙町の文化財指定を受けているが、本森林植生は日本の自然を代表するものとして学術的に優れた素材である。国民的財産

として保護し、日本の多様な自然を学ぶのにふさわしい場所であり、国の天然記念物指定が望まれる。義名山、明眼の森ともすでに遊歩道があり、文化財の活用のため、造成する必要はない。

義名山の森は運動公園が造成される以前は自然林面積も広大であったが、運動公園形成時に北側および東側が改変された。徳之島では冬期に北側からの風が強く森林に与える影響が大きい。このため北側の高木層が衰退し、明るくなった林床に蔓植物や棘植物を含む陽生植物が侵入し、公園縁のアマミアラカシ群落が衰退し、林縁は先駆植物群落に置き換わっている。アマミアラカシ群落の回復のためには冬期に北風の侵入が減少するように公園辺にホルトノキ、タブノキ、ガジュマル等の潜在自然植生樹種の植栽によって効果が得られる。

#### 謝辞

本調査は文化庁、伊仙町の依頼および支援を受け実施したものである。伊仙町教育委員会および企画課には現地調査に際し様々な支援を受けた。また、今井宣弘氏、田畑満大氏、徳之島探検隊の方々には現地調査でご協力をいただいた。群落区分については横浜国立大学大学院教授 大野啓一氏に御指導をいただいた。また、篠崎チサ氏には採集植物の標準化作業および整理についてご尽力をいただいた。また、(株)コパルト技建の小路口忠久氏には調査に対して多大なご助言をいただいた。記して深甚の謝意を表します。

#### 参考・引用文献

- 1) 初島住彦 (1986) 改訂 鹿児島県植物目録 290pp. 鹿児島植物同好会. 鹿児島
- 2) 堀田満 編 (2002) 鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 植物編 657pp. 鹿児島県
- 3) 宮脇 昭 編著 (1989) 日本植生誌 沖縄・小笠原 637pp. 至文堂. 東京
- 4) 宮脇 昭・奥田重俊 編著 (1990) 日本植物群落図説 九州 784pp. 至文堂. 東京
- 5) 宮脇 昭 他 (1974) 名瀬市の植生 128pp. 名瀬市. 鹿児島
- 6) 仲田栄二 (1988) 宜野座村の植物社会 宜野座村史 第3巻 782 - 321p 宜野座村教育委員会 沖縄
- 7) 大野照好・寺田仁志 (1996) 徳之島の植生 99 - 113p 鹿児島の自然調査事業報告書 奄美の自然 鹿児島県立博物館
- 8) 新納義馬 他 (1995) 大宜味村の自然 563pp 大宜味村教育委員会 沖縄県
- 9) 町田洋 他 (2001) 日本の地形 7 九州・南西諸島 355pp 東京大学出版会
- 10) 寺田仁志 (2007) 鹿児島県奄美大島大和村大和浜のオキナワウラジロガシ林 21 - 44p 鹿児島県立博物館研究報告 第26号



写真7 胸高直径が80cmを超えるアマミアラカシ



写真8 義名山の巨木の森



写真9 風葬地周辺の景観（明眼の森）



写真10 アミアアラカシは環境の厳しいところでは萌芽を起こしやすい



写真11 マツバラ



写真12 キレツチトリモチ



写真13 大株のフウラン



写真14 沖縄で良好な群落として残っている漢那ヨリアゲの森